

富士に見る近代日本

十通

(5)

映像作家・キュレーター 小原 真史

後発帝国主義国として 局は37年のパリ万博へ出版図拡大を企図した日本 品するため「日本観光は、1931年の満州事 写真壁画」の制作を、写変を機に国際的なイメー 真家の木村伊兵衛やアサジの悪化に苦しんでい イナーの原弘らが所属す た。このため鉄道省国際 国際報道写真真協会に依 観光局など の政府関連 機関は、日 国際報道写真真協会 「日本観光写真真壁画」(部分) 本イメーシの改善のため 頼した。

にグラフィックや写真壁画 を通じた対外宣伝に力を 注いだ。 写真壁画とは複数の写 真を組み合わせることで 壁画のように拡大された 写真のことだ。国際観光 関など日本の先進性を示

て撮って、何になるの ? 一と不思議な顔をされ ることもあるが、鋸屋根 は日本の近代産業を築き 上げてきた証しである。 「たかが工場、されど工 場」と言いながら、今も 探索を続けている。

文 化

んて撮って、何になるの ? 一と不思議な顔をされ ることもあるが、鋸屋根 は日本の近代産業を築き 上げてきた証しである。 「たかが工場、されど工 場」と言いながら、今も 探索を続けている。

事をしてきた。竣工した 駅ビルの写真を主に撮っ ていたが、これといって 自分の作品といえるもの が無い。「どうしたらいいんだろ」と悩んでいた はキザギザ屋根の工場が 最中の、運命の出合い



JEUX OLYMPIQUES ET GRANDE EXPOSITION

写真が配された。エキ 縦2・35×横18という ノック・ジャパンとモ 極端に横長のプロポーシ タン・ジャパンという異 ヨンの写真壁画を安定さ なる要素をまとめ上げ、 せるには、均整のとれた 稜線を持ちなが らも西洋人のエ キンチズムにも 思えられる富 士が効果的だっ た。

背景としても メインモチーフ としても有用な 富士は、日本の 対外宣伝の中心 的なアイコンと して活躍してい くことになる。 「フォトタイ ムス」1937 年4月号より、 (個人蔵)

文化往来

る内容だ。

「写真家の多面性がわかる編集 ある。プリントによって焼き付け にした」と河出書房新社。監修者 やトリミングに異同がある場合 は過去の写真雑誌などに当たって は、原則として初出の形を尊重し ています。これまで忘れられていた作品を網 羅した。よく知られた作品も初めて見 羅的に精査。50年代のモノクロ写 するよ様な印象を与える。

植田正治の写真集決定版、新たな顔発見

植田は故郷の鳥 取で活動した写真 取で活動した写真 集からは植田が様々なスタイルを 集められたことがうかがえる。写真 家のイメーシが変わるはずだ。

残念なのは、こうした 鋸屋根が年を追うごとに 姿を消していることだ。 繊維産業が縮小するにつ れ、物置や駐車場に転用 され、取り壊しに遭うケ ースが多い。 カフェに改装し活用 鋸屋根発祥の地、英国 では耐久性のある石やレ ンガ造りが多いこともあ り、再利用が進んでいる。 2005年に鋸屋根研究 者の野口三郎先生と英国 を調査した際は、19世紀 前半に造られた鋸屋根が スーパーや美術ギャラリー などにも生まれ変わって いるのを見て感心した。 日本でも最近鋸屋根 を積極的に残そうといっ だ・けいこ(写真家)

鋸屋根 連なる工場の記憶

◇紡績織物工場の英国式キザギザ屋根を写真に◇

吉田 敬子

工場といったらどんな 姿を想像するだろうか。 キザギザした三角形の屋 根が並んだ光景を思い浮 かべる方も多いだろう。 ノコギリの歯に似ている ので「鋸屋根」。明治期 に英国からもたらされ、 主に紡績や織物工場に用 いられた建築様式だ。

近代日本を支える 私は20年ほど前から全 国を巡って鋸屋根を写真 に収めている。その数3 千棟を超えた。「工場な 建築写真の仕事



初めて撮影した今源織物の 鋸屋根 (群馬県桐生市)

「片っ端から撮ってみ るか」。4×5サイズの判別 カメラを担いで市内を回 り、新聞で見つけた今源織物 の鋸屋根をはじめ約30 0カ所を撮った。木造だ けでなく、レンガや大谷 石、鉄筋コンクリート造 りのどっしりしたものま で。桐生の鋸屋根はバリ エーションが豊富で、実 に個性的だった。



初めて撮った。竣工した 駅ビルの写真を主に撮っ ていたが、これといって 自分の作品といえるもの が無い。「どうしたらいいんだろ」と悩んでいた はキザギザ屋根の工場が 最中の、運命の出合い

北向き窓、柔らかな光 鋸屋根には全国共通の 特徴がある。2面ある屋 根のうち、勾配のきつい 方がたいてい北を向いて 探して訪れた。

1944年に建てられ た埼玉県入間市の5連の 鋸屋根、細方織物工場を 訪れた時のこと。社長さ んが笑顔で「どうぞ遠慮 しないで」と招き入れて くれた。中に入ってびっ くり。大正時代に考案さ れた豊田式のY式織機が 16台も現役で動いていた のだ。天井の三角形の梁 (トラス)にはわせたベ ルトを伝って動力をもら い、織機はガッチャン、 パツタンと動く。ほのか な白い光に照らされた機 械の姿は、美しい一言 に尽きる。

抄 交

私はスイス 供してくれた。彼は種や のチューリヒ かな性格だが、研究に対 して芯の強さを感じた。 物心つく前に 興味のあるテーマを振り 下ろして仕事に する覚悟があった。研究 テーマを大きく変えつつ あった私は、自分もこう ありたいと強く感じた。 私はその後、母 校の東京大学に移 校の東京大学に移 校の東京大学に移